

## 安倍

私は終戦の時、朝鮮の全羅南道に両親と妹、祖父母と叔母と一緒に住んでいました。当時、祖父母は、大きな雑貨店を経営するなど、色々な事業を行っていました。

父が戦地から早くに帰って來たので、近くの朝鮮の方たちが用意してくれた船で引き揚げました。皆が荷物の用意をしていた時、私と妹は、お人形さんを抱えながら、「これだけで良い」と、はしゃいでいました。



その引揚船が途中で台風に遭い、下関に着く予定が大幅に遅れ、大変な思いをして下関から祖父の故郷である出雲大社にたどり着きました。

その翌年の春、黒く墨で塗られた国語の教科書を貰い、出雲大社の小学校に入学しましたが、1学期くらいで父の郷里の鹿児島県日置郡吹上町の父の親戚のところに移りました。そこで、地元の花田小学校に転入しました。



全羅南道

周りの子供たちが裸足で通学していた頃、私は自分の足が大きくなつて履けなくなるまで、赤い革靴で通学しました。

4年生の時、鹿児島市易居町に引越し、名山小学校に転校、長田中、玉竜高校へと進みました。



## 大石

懐かしい拍子木だね！

みなさん！観てたんでしょう！

しばし思い出して今日の『終戦記念日』を過ごしましょう。







大石

なに!!安倍ちゃんは鑑真(遣唐船)を体験しましたか?  
確か吉松典子さんもお父様の故郷が吹上?永吉?金峰?  
典子さんもこの LINE に参加していたらよかったのに  
洋子さんのトークが読めませんね。



大畠

こんにちは☺  
皆さんのお話しさせてもらっています♪私は城山の防空壕から市内が焼けるのを見ました。  
天文館で旅館をしていましたが福岡の久留米で小学 1 年川内で 2 年、3 年から易居町大龍小学校でした。  
平岡敏子さんといつも過ごしていました。



永野

安倍さんあなたも外地からの引揚者ですか?  
懐かしいおはなし!?  
実は私もそうです



大石

平岡敏子さん、足が速くなかった。あの頃は顔可愛い☺も条件だったけど「足が速い」のも一目おかれました。彼女の足は例えればカモシカのよう。



大畠

そうですね カモシカのように 素敵な足 ⇈ をされていましたよ。  
宿題 ゴム跳び いつも一緒でした♪



西山

私の家は易居町で衣料品店を営んでいました。高校卒業の頃まで鹿児島駅から小川町と易居町への商店街がメインストリートのようになっていました。

力道山やオルテガなどのプロレスラー一行は、その商店街通りでパレードしていました。女の子はゴム跳び。男の子は目玉かカツタですか。



永野

私は満州国で生まれ7歳まで満州にいました。  
敗戦になり日本に引き揚げはいちばん最後。

一年生の夏に鹿児島に帰ってきました。  
2年の時、森尾先生でした。クラスの中で5人の中に入り成績優秀賞も貰いました♪  
ビックリ嬉しいでしたその時の賞状は今も持っています♪ 初めての賞でした。



西山

永野さん、今と同じように大変優秀だったのですね！  
その調子で病気も克服してください。  
日本の国土の2倍の面積があった満州生まれの人は多いと思います。



永野

私はゴム跳びは6年5組で一番飛べる人になりました。  
学校代表になつたこともあります。



安倍

よく、ゴム段飛びしました。  
加来いつ子さん、西原尋子さん、武田むつ子さんたちとも、  
家が近くて、良く遊びました。



森

そのころは学校対抗ゴム跳び大会があったのですね。  
知らんかった



大畠

大龍では3年と5年が谷川先生 4年と6年が山下先生でした。山下先生には絵を褒めてください、  
今まで楽しく描かせて貰っています。

同級生に上山憲一郎さん 森繁さんがいました。

森さんは福助足袋の商標の様な丸いお顔が印象的でした。

ごめんなさい 色白で 丸いお顔でしたので(顔文字)



永野

森さん 私の言いたいこと?  
私がゴム飛びをよく飛びよつたの。  
西田先生の目にとまたつたのそしたら、棒高跳びの選手に選ばれたの。



木庭

多くの方が、引き揚げを経験されておられるの  
ですね！

森さんの紙芝居の写真懐かしいですね。  
黄金バット、ただ見はできなかったことも覚えてます。  
懐かしい話が聞け、よかったです。



西山

山下岩助先生には大龍3年1組の時、顔に手形が残るほどいつも殴られて  
いました。殴られる理由は全く判りませんでした。  
軍隊帰りの先生はよく殴っていたそうです。  
あの先生の奥さんは優しそうな人ではありませんでした。  
家は高麗町甲南高校のそばでした。



森

指宿の八期同窓会で寛子様に頂いた水墨画は今も部屋に飾っていますよ。



大畠

水墨画ではなく 水彩画です  
飾って頂いてありがとうございます😊  
とても嬉しいです(ありがとう)。



木庭

紙芝居のお金、とても、母親には言えなかったことも覚えています。  
父を戦没者で亡くして、男兄弟3人、母も食べさすのに大変だったと思います。



森

高麗町の山下先生宅に正月同級生と訪問したことがありました



西山

実になごやかな良い風景の写真ですね。  
山下先生は大変な酒好きでした。



森

お酒が出てるところをみると皆さん二十歳を過ぎてたのでしょうね



大石

左は永野敦士くん？



大畠

種子田磨子さんがいらっしゃいますね、  
隣りは 前田順子さんでしょうか？



森

右端は有馬寛敏君その隣はマコさん



大石

マコさんチャーミング幾つ？



森

多分成人式のあと訪問したのでわないのでしょうか



永野

森さん貴方はよか写真を持つ  
ていますね？

ビックリ!!子供のころ私もこんな  
元気があったんだねー

ピっくりポン



安倍

ゴム段飛びの、写真、素晴らしいですね。

飛びては、永野さんでしようか？



永野

山下岩助先生校長先生でしたの？

私は小学校のとき担任でした。



森

山下先生は校長ではなかったです。  
大龍小4年生担任は石橋先生



木庭

森さん、懐かしい写真よく持っておられましたね！



永野

私は福岡県小倉市に転校しました。  
5年生で大龍に帰ってきました西田先生のクラスでしたー。  
それから長田、玉龍でしたー♪  
大龍で3年生の時西山さんとおなじクラスでした。

中村さんと西山さんの右手のとりっこをしました。

私が右手を繋いだ。

嬉しいのではなく、ゲームでした。

山下先生が男性と手を繋いで、運動場を一周してこいと言われたので  
二人が西山さんだったのでジャンケンをしました



大石  
和枝さん！  
慌てないで、ゆっくり送信しましょう。ゆっくり読み返してから  
飛行機 ✈ タップのこと。



森  
暑気払いソーメン流し会を鹿児島在住8期の仲間で開催しました。



鹿児島市 | 2025.08.16 14:54



鹿児島市 | 2025.08.16 16:29



木庭

暑気払い冷ソーメンよろしいですね！  
まだまだ暑さ厳しいです。  
皆さん、お身体ご自愛下さい！



浜崎

昨日は、腰痛で目覚め、病院は、お盆休みで困り果てていたら、田中ムツチャンのご主人に心よく治療していただき、地獄の痛みが癒え、無事、森リゾートの集いに出席出来ました。出席者は、顔馴染みの友達なのに、いつ会っても新鮮で楽しい。森家の居心地の良さに甘えて、長居をしてしまいました。持つべきは友楽しい思い出になる一日でした。奥様によろしくお伝えください。有難うございました。



西山

おはようございます。いつも通り近隣を1周してきました。  
暑くもなく、かなり秋の訪れを感じさせる朝です。風も涼やかです。

恒例になった感がある森迎賓館でのソーメン流し、堪能されたことと思います。

浜崎さん、お元気な様子で何よりですね。

ゼンチャンも隈元さんもお元気な様子、森さん大石さんは相変わらずお元気で何よりです。

森さんの奥さんもお元気になられたでしょうかそちらでそれだけの人数が集まられた事は私は奇跡的なことだと思っています。その奇跡ができるだけ長く続けられるといいですね。

再会できることを楽しみにしております。充分満足していただけるように準備を進めております。



永野



大石

いまわれわれが戦国島津という時、四兄弟(義久・義弘・忠久・家久)が頭に浮かびます。中央では信長・秀吉・家康(関ヶ原)の頃ですね。

今日の『かごしま見聞記』はその島津四兄弟のベースになる父、祖父の活動した薩摩半島をベースに当時の様子がよくわかる記事です。

江戸時代から幕末へ日本史の中心で活躍した斎彬・久光(島津)へと繋がるルーツでもあります。鹿児島にルーツを持つ八期のみなさんも、スマホを駆使して、Google で「島津貴久親子」と書き込んで自分なりの「島津探求」してみませんか(?)(?)(?)





ゼンチャン

宮崎放送の終戦記念番組にえびのの従兄弟の秋丸信夫さんが出ていました。

秋丸機関についての話です

秋丸次朗は私の母の兄になります。

森君から送ってきましたので8期の皆さんにも観て貰いたいと思って転送しました。

ゼンチャン

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0e6d5549ecb5180a194902e8c7032ba4061c7691>

太平洋戦争の開戦前「戦争に勝ち目はない」と分析した陸軍の研究班『秋丸機関』



後世に伝えるメッセージ

 宮崎ニュース UMK

8/15(金) 19:39 配信

テレビ宮崎では、シリーズで、「戦後80年～過去を知る 未来に伝える～」をお伝えしています。8月15日は、森山記者とお伝えします。



太平洋戦争の開戦前、「戦争に勝ち目はない」と分析した、秋丸機関という陸軍の研究班があったんですね。（森山記者）  
中心人物だったのは、えびの市出身の男性でした。この男性の息子から見た父の姿、戦後発見された貴重な資料、そして研究者の分析から、私たちが次の世代にどう伝えていけばいいのか。終戦から80年が経った8月15日、考えます。

（秋丸 信夫さん）

「私が生まれたところは満州。親父は出征しとった。南方に」秋丸 信夫さん、87歳。

その間、親父はずつといないんだから。(Q. 記憶は?)ないない、全然ない」信

夫さんは、終戦の半年前6歳で、父親の出身地・えびの市に疎開してきました。

（秋丸 信夫さん）「うわあ暑いね。中にいると全然わかんない、この暑さがね」

（秋丸 信夫さん）「これが全部」（秋丸信夫さん）「この写真はね、昔からあったの、家に。なんでこんな写真があるんだろうかと。それが後になってわかるのね。これが結局ね、秋丸機関」秋丸機関。開戦間近の1940年1月、陸軍に、日本をはじめ、アメリカ、イギリス、ドイツなど主要国経済力を調査・研究する機関がつくられました。「陸軍省戦争経済研究班」、通称「秋丸機関」です。（森山 裕香子記者）

「東京大学に来ています。こちらには、太平洋戦争開戦前、秋丸機関がまとめた調査報告書が保管されています」東京大学経済学部資料室に調査報告書が残されています。取り出された資料は2つ。「英米合作経済抗戦力調査」の「其一」と「其二」。「其二」には、「極

---

秘」「陸軍省戦争経済研究班」の文字。色褪せることなくしっかりとそう書かれています。

秋丸機関が、およそ1年半かけてイギリスとアメリカの経済力を調査し、戦争の見通しをまとめた報告書です。（秋丸 信夫さん）「これが次郎さんね、この班が英米班」真ん中に映っているのが信夫さんの父、秋丸 次郎です。陸軍省戦争経済研究班の班長だったことから、秋丸機関と呼ばれるようになりました。

（秋丸 信夫さん）「うちの親父が、そんな大変なことをするはずはないと思ってたから。こえたん（農具）を担いでるおじさんがさ、百姓のおじさんがさ、戦争をするかしないかという調査をすると思う？」

飯野村、いまのえびの市に生まれた次郎は、関東軍の経済参謀として満州へ。その後、秋丸機関創設のため日本に呼び戻されました。

「其一」には、イギリスとアメリカの経済力の大きさが、「其二」には、弱点が記されています。日本の経済力も分析・比較し、アメリカとの戦争に勝ち目はないと導き出していました。

（秋丸 信夫さん）「色々な人からさ、（報告書が）受け入れられていたら、いまの日本なんて戦争に負けないで、もっと平和になってるんじゃないかって言われる。

そうじゃなくて、歴史に「もし」はないわけですよ」秋丸機関について研究している、慶應義塾大学 経済学部の牧野邦昭教授です。（慶應義塾大学経済学部牧野邦昭教授）「ある意味では、（当時）みんながある程度の正確な情報がわかっていたのにもかかわらず、戦争へと向かっていってしまった、ということを知るうえでの重要な資料だと思う」秋丸機関について、次郎は長く語ろうとしませんでしたが、終戦から34年がたった81歳の時に、その時の心情を明かしています。

「すでに開戦不可避と考えている軍部にとっては都合の悪い結論であり、消極的平和論には耳を貸す様子もなく」「大勢は無謀な戦争へと傾斜したが、実情を知るものにとっては薄氷を踏む思いであった」「陸軍は秋丸機関の調査を無視して開戦に踏み切ってしまった」とされてきました。

これに対し、牧野教授は「報告書は正確に戦争の困難さを指摘していたものの、別の形で解釈され開戦の判断材料になってしまった」と分析します。

（慶應義塾大学 経済学部 牧野 邦昭教授）「日本は、近代に入ってから負けたことがなかった。負けたことがなかったからこそ、最悪の結果を想定できなかった。我々は最悪の結果を知ってるからこそ、戦争をしないということを戦後ずっと続けてきた。正しい情報を得るだけではなくて、それをどう使うかという問題が、一番重要なのではないだろうか」次郎は戦後、公職追放を経て、飯野町長を2期、えびの市の社会福祉協議会の会長を13年務めました。

---

(秋丸 信夫さん)「戦争の遂行を止めることができなかつたから、別のところで、國なり何なりに貢献しようとしたんじやないかと」次郎の三男である信夫さんは新聞記者となり、定年退職後、ブログで秋丸機関について発信してきました。

(秋丸 信夫さん)「正史じゃないんでしょうね、傍史なんでしょうね。大東亜戦争という戦争の始まりから終わりまでずっとあってさ、そんなかほんのわき道なんだ。でも、そういうこともあったということも知ってもらいたい」

(慶應義塾大学 経済学部 牧野 邦昭教授)「真剣な情報発信は、結果としては役に立たなかつた。なぜ役に立たなかつたのか、希望的観測に飲み込まれてしまったのはなぜなのかということを、反面教師的な形で活用していくというのが、秋丸機関を調べていく現代的意義なのでは」

(森山記者)私は、父から秋丸機関のことを聞き、興味を持ちました。戦争は遠い話だと感じていましたが、取材をして、情報の捉え方次第で戦争になつてしまうと感じました。秋丸 次郎さんは、晩年、「後世の為に何らかの価値あることを」と経験を綴りました。正確な情報があつても、戦争に突入してしまつた過去を、繰り返さないようにしなければなりません。



西山

1937(昭和 12)年7月の日中戦争の勃発から、アジア・太平洋戦争の敗戦までに、約 230 万人の日本軍兵士が戦争で死んだ。その多くは戦闘による死ではなく、病気による死(戦病死)であった。

それまでの戦争ではみられなかつた大量の海没死(輸送船沈没による死)や、特攻死(特攻攻撃による死)などの異形の死も、この時期、特にアジア・太平洋戦争期の特徴だつた。退却の際に、捕虜になって情報を漏らすことを恐れて、手りゅう弾などによる自殺の強要、または友軍に殺害される傷病兵は少なくなかったといふ。



隈元

2020 年 7 月 21 日、えびの市の秋丸さん宅を訪ねて、お聞きした「秋丸機関」のブログは下記をクリックしてください。

あの日も暑い日でしたが、えびの市の食堂で食べた冷麺の美味しさは忘れることができません。

<https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/202112100000/>



木庭

ゼンチャン、宮崎テレビ、秋丸機関、見ました。開戦前にこのような報告書が出され、なぜ生かされずに太平洋戦争に突入されていったのか残念です。

他に、私は、京都大学濱崎洋介先生が書かれた大東亜戦争の本質、文学者が見た戦争の舞台裏について、を読んでいます。



上山  
ありがとうございます



西山

## 日本を戦争に引きずり込め！マッカラム・メモランダム

戦争は既に仕組まれていた。

アメリカ海軍情報部極東課長のアーサー・H・マッカラム  
海軍少佐は明治 21 年(1898 年)長崎に生まれました。  
少年時代は日本の諸都市で過ごし、日本文化を理解し、  
18歳のときにアメリカ海軍兵学校に入学し、卒業後、駐  
日アメリカ大使館付海軍武官を命ぜられて来日します。

アメリカ大使館で当時皇太子であった昭和天皇にジャ  
ズのリズムをとるため、膝のたたき方を教えたといいま  
す。

<http://kentahawaii.cocolog-nifty.com/blog/photos/uncategorized/2015/07/26/imgp1323.jpg>



大正 12 年(1923 年)の関東大震災時、マッカラムは米海軍からの救援活動の調整にあ  
たりますが、彼は日本人は尊大で自負心が強く、「異人」の救援活動を快く思わなかつたと  
受け止めます。そしてそれから 17 年後、日本を戦争に引きずり込むためのマッカラム・メモ  
ランダムを作成します。昭和 15 年(1940 年)10 月のことです。この頃欧洲では第二次世界  
大戦の最中でした。太平洋の海軍基地他、特にシンガポールの使用について英國との  
協議締結。

- B. 蘭領東インド(インドネシア)内の基地施設の使用及び補給物資の  
取得に関するオランダとの協定締結。
- C. 支那の蒋介石政権に可能な、あらゆる援助の提供。
- D. 遠距離航行能力を有する重巡洋艦一個船体を東洋、  
フィリピンまたはシンガポールへ派遣すること。
- E. 潜水船隊二隊の東洋派遣。
- F. 現在、太平洋のハワイ諸島にいる米艦隊主力を維持すること。
- G. 日本の不当な経済的要求、特に石油に対する要求をオランダが  
拒否するように主張すること。
- H. 英帝国が日本に対して押し付ける同様な通商禁止と協力して

---

行われる、日本との全面的な通商禁止。

当時、日本は貿易の90%がアメリカ依存で輸入品の2位に石油、4位にくず鉄でした。これらで日本を締め上げオランダ領インドネシアに石油を求めていたらオランダに拒否させようと画策したのです。

そして蒋介石政府を支援し、自らも軍事的な挑発行為を行うというものです。マッカラム・メモランダムはルーズベルト大統領が信頼していたウォルター・S・アンダーソン大佐(後、ハワイ就任)とノックス海軍大佐に承認され、ルーズベルト大統領が目を通しています。リチャードソン合衆国艦隊司令長官はF項に反対し、後に更迭されています。

よくアメリカが日本に対して全面禁輸を行ったのは日本が南部仏印(ベトナム南部)に軍を進駐させたからその報復と言われていましたが、マッカラム・メモランダムに従っていただけです。日本軍の南部仏印進駐以前に石油全面禁輸は決まっていました。

この戦争挑発マッカラム・メモランダムの背景には昭和15年(1940年)9月27日の日独伊三国軍事同盟があります。アメリカ国民は欧州戦線への参戦を嫌っていましたから、日本を挑発し、開戦にもって行き、欧州戦線に参加する意図があったのは明らかでしょう。

昭和16年(1941年)7月9日、ルーズベルトは大統領はチャーチルとの会談で「3ヶ月は日本を赤ん坊のようにあやしてやるよ」と言い、裏口からの参戦を約束しました。



木庭

西山さん、興味深く読みました。



西山

市來龍作さん 月末にこの LINE に書かれたメッセージをまとめて掲載する八期オンライン日記に載せるための顔写真をお送りください。

その他の方々もこの顔写真を使用して欲しいというものがあればお送りください。いつの時代のものかは問いません。



永野

鹿児島すごい雨☔

私も流されそう。



大石

終戦記念日の8月15日に載った同年代の作家／評論家の保坂正康氏の投稿を読んでみた。大石

3 総 合 2025年(令和7年)8月15日 金曜日 本

戦後80年は、日本が経験した戦争が「同時代」のものから「歴史」へと変化していく時期だ。同時代といふのは戦争を肌で知っている世代の解釈で、そこから一定の期間を経て、普遍的な歴史の解釈へ移行していく。

戦争体験には従軍など戦場体験、空襲など被災や疎開の体験などがある。取材で元兵士に話を聞くと「二度と戦争はすべきでない」と口をそろえた。これを次の世代にきちんと伝えていく必要がある。調査では、直接体験した人は3%だが、親などから聞いて知っている人が20%いる。まだ社会の中で戦争の継承が機能していると言える。

先の戦争が侵略か自衛かという解釈は史実を検証した上に成り立つ。戦後70年時の調査と比べ、侵略戦争だと答えた人が減り、自衛とした人の割合が今後も増える予兆だろう。「自分たちは何も悪いことをしていない」という感情、国家主義的な発想が前面に出ていると懸念している。

今回最も興味があったのは、首相によるアジア諸国への加害と反対謝罪の在り方に関する回答だ。加害と反省に言及した上で、謝罪する必

ほさか・まさやす 39年、札幌市生まれ。ノンフィクション作家。「昭和陸軍の研究(上下)」など著書多数。

## 「戦争しない」を次世代へ 戰前への回帰指向に不安も

一方、変えるべきだと答えた人は、象徴天皇制・国民主権を評価しない人が10年前は9%だったが、20%になった。1894年に日清戦争が始まり、1945年に太平洋戦争が終わる約50年間、戦争の時代にあつた大日本帝国憲法への指向を強め、歴史に向き合っていないのではないか。戦争放棄・平和主義への疑問も39%に上っており、いささか不安な思いを抱いた。

戦後の日本で特に良かったもので最も多かったのは戦争をしなかつたことで、良好な治安、高度経済成長が続いた。これらは日本人のプライドと言える。一方で、将来の見通しでは21世紀の人類史が悪い方向に行く不安を抱いている。つまり、戦争の時代に向かうとの恐れがあるのだろう。

戦後80年を象徴する出来事の上位には高度経済成長などのほか「バブル経済と崩壊」というマイナスの項目も上がった。バブル景気の狂瀾を心の痛みと捉え、歴史を冷静に見ようとしているのだろう。日本人はバランスを崩し、増長すると異様な社会をつくるという「自省」も読み取れた。

憲法に関する設問で、このまま存続させたい人の中では戦争放棄・平和主義を評価したのが80%に上り、完全に国民に定着していると見てい

要があるかないかで答えが分かれた。反省と謝罪がセットでないことは矛盾があり、アジア諸国の人々は認めないだろう。

### 作家の保坂正康さん





森

玉龍同窓会総会の新聞広告です。8期も長老組に入ってきました。  
広告出稿も中村隆重氏のみになりました!。会費も値上がりしています。



木庭

森さん、情報連絡ありがとうございます。

大石さん、保坂さんの記事、読みました。ありがとう。先行、将来への不安を抱いている人 増えているのではないでしょか？



森

天気もあがり今夜は錦江湾大花火大会が開催されます。見に行きます。

これは昨年の花火大会の写真です。



これらあたりは  
ここにはない  
ビデオ映像を  
見ながらの  
おしゃべりです



木庭

森さん、花火すごかったです！側から見ていると音もはいり、凄い迫力満天、楽しまれたことでしょう。ありがとう。



森

この花火がフィナーレの3尺玉連続打ち上げです



永野  
映像にする技術  
ウデがいいです



大石  
和枝さん・ハート ブレイク ホテルがいいね。



永野  
大石さん森さん  
映像にして貰い 有難う御座います。  
鹿児島にいながらありがたい ワンダフル。  
現場まで行かれてころびなさんな



大石  
今年は戦後 80 年の節目@@ということで新聞も特集記事が  
連日続いています。  
見慣れてしまいつい早読みしてしまいます。

そんな中、今日の 19 面の「本土決戦」  
陸軍第 86 師団の記事は熟読してしま  
いました。  
あの沖縄瓶米軍上陸作戦を凌ぐ光景  
が志布志の浜で起こっていたかも知  
れない。  
怖いことですネ@@  
そして『よかった(いいね)(いいね)』



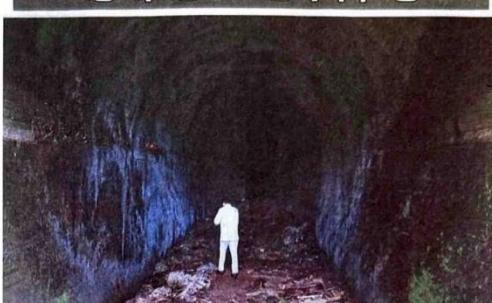
志布志市安楽並木のシラス崖の一角に、コンクリート造りの穴がぽつかり口を開けている。幅4尺、高さ4・6尺で約20坪の奥行きがあり、中ほどに機械を据え付けるコンクリートの基礎のようなものが残る。元では「発電所跡」と呼ばれる。近い丘の上には「通信壕跡」とされる構造物もある。現在は封鎖されている。



総延長16キロ、臨戦態勢

1945(昭和20)年6月、沖縄で勝利した米軍は次の狙いを日本本土に定めた。100万人以上の兵を投入し、25万人を超える死傷者を覚悟した歴史上最大の上陸作戦だ。主戦場は志布志湾、決行日は11月1日。日本軍側も早くからこれを予想して44年4月に陸軍第86師団を編成、司令部を志布志市松山に置いて陣地構築を進めていた。45年8月の日本の無条件降伏で地上戦は回避されたが、大隅半島を中心に県内全域で沖縄戦同様の軍民入り交じった戦いが繰り広げられる寸前だった。

## 志布志の地下陣地



シラスの崖に残るコンクリート造りの壕は、旧日本軍の発電所跡と伝わる

=21日、志布志市安楽平床（山野俊郎撮影）

■ 松山に師  
や艦艇射撃を  
上陸が決行さ  
出で水際で敵  
想だ。  
敗れたとは  
の米兵を劣勢  
え撃ち、苦し  
踏襲を意図し  
ない。  
45年の初夏  
地は縦延長16  
方完成してい  
砲台や機関銃  
加え、炊事場  
た巨大地下要  
あつたはずの  
は現在、自然  
安全のためふ  
て存在を知る

（司令部） いえ、54万人 地下で耐え  
の11万人で迎 れれば地上に  
めた沖縄戦のは を撃退する構  
たのは間違い 上硫  
には、地下陣 は  
の8～9割 たと伝わる。  
壊の出入り口 たと伝わる。  
に埋まつたり、市 方第  
さがれたりし 中しし  
人も少ない。 は

古い石垣や武家門が残る  
松山町新橋の馬場地区  
、民家の多くに軍関係者  
が、先にして陣地構  
置き、兵士たちの様子を今も  
収め、爆撃機や戦闘機  
襲撃砲怎化を狙う。大本  
部は米軍の意図をそ  
うだ。  
45年3月に小笠原諸島  
黄島を陥落させた島  
、4月1日に沖縄本島  
陸した。軍部は2月上旬  
57軍を編成し、「南九  
方面の作戦準備を速急元  
へ攻する敵を撃滅す  
」と下命した。57軍は

■米　軍の車に、志布志は戦時、日本軍をして、「ダウントン」のコーン上陸を、関東上陸の「クック」作曲が寝泊さん(90) もよく覚

軍側の作戦準備の本土侵攻に關するの予測は、ほんの少しだけな  
た。米側の作戦名は「シントール」。  
「オリエンピック」。  
陸を「コロネット」。  
ドネームで呼んだ。  
5月末にはオリエンピック。  
見定めた臨戦態勢。  
態に近かった。

トルマニ  
にいためにい  
たる事で、  
運ぶ兵士が、  
運死傷者を出  
すでも同様の比  
率は出せば、米軍  
は必ず差を取  
られる。

。シノ  
たきの  
疲れが  
による  
つ。そ  
の主戦  
を大き  
民の命  
カウン  
米画圖  
俊郎

## 兵士、子どもに緊張見せず



松山町の木藤さん(90)記憶

「主戦場」は大隅想定

あの時、ここで

本土決戦

## 空氣の釀成 特

戦後80年。1945年の敗戦に至る過程を、鹿児島の人と場所を切り口に、「特攻」「本土決戦」と、国民の多くが戦争燃焼を支持し続けた昭和の醜化(?)の三つのテーマで浮き彫りにする(臨時掲載)。

21



森

新聞では文字が小さくて読み飛ばしていたけど大石君がここに再掲してくれたので拡大してじっくりと読むことが出来ました。有り難うございます。



大石

今朝新聞読みました~今年は戦後 80 年今まで感じなかつた日本国戦後生まれの私ですか~政権懇話会、新聞、報道、小説等通じて考えさせられる年でもありました。昨今、刻々と戦争に向かっている現状のように心痛める 1 人として、原爆や戦争の悲惨さを後世の若者達に継承して行かなくてはとつくづく思う日々~平安の中で過ごして来た人達は他人事のように受け取っている友人達も沢山います~有り難うございます。[\(上\)永野敦士くんの奥様から個人 LINE がきました。](#)



大石

「オリンピック」のコードネームで志布志が、主戦場になった可能性があつたとは初めて知りました。

終戦が一歩遅ければ、南九州も沖縄の二の舞いになっていたかも知れないですね。

もしかしたら垂水に居た両親も、犠牲になっていたかも知れず、私もこの世に存在しなかつたかも知れないですね。

この記事は見ていませんでした。良い記事を有り難う御座いました♪

[\(上\)大迎江\(大石友人\)から](#)



大石

恐ろしい…

戦争で一旦始めてしまうと、終わらせるのが大変なんでしょうね

お互い、譲れないのは、人間同士の喧嘩も同じですね

人間が、本当に地球 地球を破壊してしまいそう♪

[\(上\)海江田順三郎令嬢コメント](#)



大石

そんな事が あつたんですね！

それが 実行されてたら 今と 全然違つてましたね

ほんと 良かったです。

他の場所には 申し訳ないですが(申し訳ない)



大石

戦争をもっと早く止めなかつたのか、と、悔しい気持ちになる。  
天皇に諫言できる立場の人は近衛文麿しかいなかつたそうだが、  
性格が優柔不断だった…自殺するぐらいならハッキリ言うべきだった！

東條英機は、まだまだ続行すべしと、狂ってる！

現在のUAジェレンスキーも早く終戦をして、戦死者をこれ以上出すべきで無いと思う。



大石

大石コメント

いろいろ意見がありますが…

このコメントはさらに意味深です。この友人は結構難解です。



大石

有難う御座います(ありがとう)

身近な戦況は未だ未だ！！

次々に！初めて！(◎\_◎;)

アメリカへ怒りまで♪

私は疎開地体験の6才～それでも！鮮明な時代の記憶。

その頃、叔父叔母の会話！

逃げ惑う靈魂の体験は、2人から聞いています。

西郷銅像の後ろ、藤武さんへ逃げて来た兵隊の靈。

長田町の母実家前の道を逃げる靈魂達の声、、

私も思い出しました、、



ゼンチャン

終戦から80年今年は戦争体験やいろいろな意見がライト一クされて平和ボケしている我々にとっては改めて戦争の恐ろしさを実感させる話しで後世に語り続けてべきだと思っています。



森

長田町で靈魂の逃げ回るような道は城ヶ谷しかないようですが子供の頃城ヶ谷の上の方に幽靈橋と呼ばれる小さな橋がありましたが何か関係があるのかな



### 大石

今晚は、新聞の記事を見て志布志がそうだったんだと私も恥ずかしいのですが今日知りました。主戦場が大隅想定だったとは…  
私の父は硫黄島に行ってたけど怪我をして帰ってきたので玉碎を免れたそうです。

志布志にしても父にしても…と思います。

新聞の反応、夜まで続きました。



### 木庭

沖縄の次は、本土決戦が本当だったようですね！  
びっくりして読みました。  
ありがとう。



### ゼンチャン

我が国の憲法は世界で唯一戦争の出来無い国になっています。先の太平洋戦争ではアメリカの戦略に日本はのせられ真珠湾攻撃をして戦争に巻き込まれ日本本土迄徹底的に草も生え無い位焼き尽くされて終戦を迎きました。

アメリカに占領された我が国は徹底的に2度と戦争ができる国に憲法迄アメリカの言いなりに変えられ現在迄憲法も変えずに来て居ますが僕は 80 年間戦争に巻き込まれずに来れた事は良かったと思っています。

もしあの戦争で日本がアメリカに勝つていたらどんな国になっていたか考えただけでも怖い国になっていたのではないかと思うと負けて良かったと思ってしまいます。



### 木庭

アメリカの占領政策は功罪ありますが、良かったと思いますが、もう少し、日本は将来、どのような社会にするか？自主性のある政治を期待したいです。



### 大石

<https://youtu.be/u1yEZcaprJA?si=ZGdsdZlIzgEdzaBq>  
<https://youtu.be/u1yEZcaprJA>



### 大石

永留クンから。  
これから八期友人はクンづけで書きます。本人にそう呼び慣れているので、あまり会ったことのない八期友人にはさんづけでお呼びします。



浜崎

義母の弟さんは、志願兵の特攻隊で、出水から出撃、帰らぬ人となりました。テレビや映画の戦争シーンがあると、そっと座を立たれ、深いため息をついて、涙ぐむ方でした。百才で亡くなるまで、18才の弟さんのこと、一日たりとも忘れたことのない人生でした。



永野

森家お墓の  
様子がわかり  
ます  
今日は霧島  
よかこつだね



木庭

主戦場は大隅想定、南日本記事、見て、戦後、母に連れら、  
日豊本線 JR 北俣駅で降りて食料品買い出しに行ったこと、思いだしました。



安倍

今日は私が長年楽しんでいるフォークダンスのお話をします。  
毎週月曜日 夜の 6 時半から 8 時半までの例会にバス 電車を使用して 隣の駅の近くの小学校まで通っています。  
ちなみに 昨夜は 会が始まってから 2714 回目の例会で、  
50 人ほどの方々と踊ってきました。

少しも上達はいたしませんが、音楽に乗って 手に手を取って踊ることはとても楽しいです。  
コロナ以前は 90 人ぐらい会員がいましたがここに来て、高齢のため  
やめる人が多く約 60 人でこのうち男性は 14 人ほどです。

私も 最高齢者の仲間ですが。このおかげで元気を保っているのかな  
と思うと、やめることができません。いつまでもできるとは思いません  
が 足腰が言うことを聞いてくれる間は楽しみにしたいと思っています。  
添付の写真は私がまだ入会間もない頃、全部手作りで作ったトラキア  
地方の衣装です。3 年ぐらいかかったと思います。

作る楽しみ、着る楽しみ、踊る楽しみです。



ゼンチャン

安倍さんお元気ですね～この歳でフォークダンスをやっているのですね。日本舞踊をやっている人は沢山いますがフォークダンスをしているとは若さの秘訣ですね～僕等引きこもりで足腰も弱くなって歩くのも億劫になっています。いろんな事をなさって元気で頑張っている安倍さんが羨ましいです。まだ、まだ暑い日が続いているので熱中症やコロナに気を付けて元気で頑張って下さい。



大石

羨ましい！西の寛子さん！東の洋子♪  
南の和枝さんを忘れてた。



西山

安倍さん！フォークダンスをなさっていることも驚きですが、コスチュームが3年もかけた手作りとは凄すぎ。作る楽しみ、着る楽しみ、踊る楽しみに加えて、そして見て貰う楽しみ。



浜崎

大石君、東西南北の北の素敵なお忘れでは、吉田さん、そう末富さんは、スクエアダンスの全国大会に、出場された上級クラスの方です。大畠さんも。上田平さんも出場されたことがありました。ダンスの上手なヒーチアヤン東京でお会いするのを指折り数えて、楽しみにしています。



大石

末富さんとは2週間程前にスマホを使ってLINE交信直前まで行ったのですがダメでした。いつかこの八期会LINEの仲間になる日を待ちましょう。



浜崎

吉田さんとヒーチャンはテニスでWをくんで秋田国体で大活躍若き玉童の、名前を轟かせました。わ、



西山

安倍さんの投稿で、にわかに長文投稿が増えました。  
高まる胸を抑えての事だと思います。

---

もうしばらくの辛抱、夢は現実になります。



ゼンチャン

吉田さんとヒーちゃんが秋田国体にてた時の練習相手は僕と橋口ケンちゃんでしたが2人が強く歯が立ちませんでした。



西山

今にして知る新事実、驚くことばかりです。でも少しは知っています。

国体派遣の費用が学校から出ず、私費で出場することで校長の許可を得ましたが、代わりに修学旅行への参加は断念したとか。

テニスと言えば、夏休みに磯で泳いで亡くなった色白の上野くんとか言う人がいましたよね。テニス部の人たちは、小石が多いコートをローラを引いて整地をしていました。夏休みに私も少しテニスをさせてもらったことがあります。

色黒で歯が白い橋口くんの事はよく覚えています。ブリキ屋さんでした。

後列左が橋口君、前列右から2番目が末富さん、後列右から2番目は善ちゃん？

映像保存家の森さん。噂のヒーちゃんは、ここには写っていないのですか？



安倍

末富さんの左隣が、ヒーちゃんですよ。

一番左の女性は、山次さんです。



西山

そうですか、教えていただいてありがとうございます。



ゼンチャン

このテニス部の仲間で中学の頃からテニス🎾をして、いたのは僕の記憶で日高智君だけだったと思います。1番右側が日高智君です。

このメンバーで現在も現役で毎週テニス🎾をして頑張っているのは橋口ケンちゃんですね～(ガンバレ)



森

名前を覚えていたら他の方々の名前を教えてください



ゼンチャン

男性は日高、南郷、四元、橋口

女性は末富、竹之内、後の2人の名前を思い出しません。



当時の野球部の合宿食事風す



森

監督の奥様も食事風景の写真の後方におられるようです



木庭

当時の部活動、テニス部、野球部、活発な意見交換、当時の門外漢でも懐かしく思いました。



大石

小吹悦子！懐かしい名前！

大龍の3?4?年生の時同じクラスだったかも。



西山

当時、キャプテンであった加治屋義人さんに、玉龍の野球部員が少ない理由を、お尋ねしたらレギュラーになれない人は辞めて、勉強に専念したからだと仰っていました。

野球部員

昭和	29	30	31	32	33	34
部長	野田敬二	野田敬二	野田敬二	野田敬二	野田敬二	野田敬二
監督	有村増蔵	有村増蔵	有村増蔵	有村増蔵	有村増蔵	有村増蔵
	坂元正憲	徳重勇	五代友和	有村駿	宮里三平	吉村利雄
	松崎季則	竹下脩	市来豊次	佐々木史郎	福永昌生	米盛司郎
	西山俊明	西迫光男	加治屋義人	岸尾和男	四元等	田ノ上光一
	山下久男	運天政弘	崎田貴文	藤田晃洋	山本公夫	吉見克明
	福崎安義	今釜郁男	山下武男	南園茂	有馬宏	浜屋淳一郎
			横水寛治		竹之内英文	藤崎政彦
			福山満		中山美彦	溜池辰治
					片山智雄	
					小村正夫	

甲子園戦績

昭和	季節	大会	回戦		勝敗	スコア	対戦校
31	春	第28回	2回戦	玉龍	●	0 - 3	○ 岐阜商
33	夏	第40回	1回戦	玉龍	●	3 - 9	○ 法政二
35	春	第32回	1回戦	玉龍	●	2 - 6	○ 大宮
37	春	第34回	1回戦	玉龍	●	2 - 4	○ 高知
39	夏	第46回	1回戦	玉龍	●	0 - 3	○ 花巻商
40	夏	第47回	1回戦	玉龍	●	3 - 5	○ 武相
46	夏	第53回	1回戦		○	12 - 0	● 花巻北
			2回戦 準々決勝	玉龍	○	6 - 4	● 今治西
					●	0 - 1	○ 桐陰学園

県大会戦績

昭和	季	1回戦	2回戦	3回戦	準々決勝	準決勝	決勝
29	春	2-0 国分	3-2 加治木		2-8 鹿実		
	夏	13-9 出水 0-5 大宮 (宮崎)	7-0 高山	2-0 国分	1-0 加治木	1-0 甲南	0-7 鹿商
	秋		10-3 指宿	8-0 川内	8-1 加治木工	11-2 甲南	0-10 鹿商
30	春		6-0 串良商	7-0 川内	0-0 出水 2-1 出水	13-1 鹿実	8-0 鹿工
	夏	東九州 3-1 大淀 (宮崎)	6-0 伊作	13-0 阿久根農	2-0 鶴丸	5-3 出水 2-12 出水	2-6 鹿商
	秋	0-0 加治木工 7-0 加治木工	11-1 鶴丸		7-0 枕崎	0-1 出水	
31	春						
	夏	0-3 鶴見丘 (大分)	9-0 国分実	7-2 指宿	4-3 鹿児島	3-0 甲南	1-8 鹿実
	秋	8-0 谷山	11-1 薩南		2-9 鹿商		
32	春		2-0 枕崎	16-0 串木野	3-1 川内商工	5-0 鹿工	0-8 鹿商
	夏		7-0 末吉	9-1 指宿	0-3 鶴丸		
	秋	10-3 出水実			2-1 枕崎	1-2 鹿商	
33	春	12-0 鹿屋	3-1 末吉	3-2 甲南	0-6 鹿商		
	夏	7-0 串木野	14-0 宮之城	2-1 加治木	3-2 鹿児島	2-0 鹿実	2-0 照国商
	秋		4-0 末吉	8-1 出水実	5-2 鹿実	0-5 鹿商	





西山

本日午前0時まで8月分として受け付けます。ラストスパート。

永野

西山さん ご無沙汰しています。  
永野は、今は身体を治しています  
8月ぶん!?

森

玉龍同窓会総会に来ています。  
八期は浜崎、木佐貫、森の3人が出席。  
席も一番先頭になりました。



2025.08.30 19:44

隈元

よっ！大先輩！  
と後輩に言われる歳になりましたね。最後まで楽しんでください。



31



森

同じテーブルに2年先輩で前田クリニックの院長をされてる前田忠氏がおられて、かねて診てもらっていたいろいろ注意を受けているのでご馳走を食べにくかったです。

左から3人目の方です



これらの写真の他に、「ライン；玉龍同期会」に動画がありますので、ご参照ください。

浜崎

今晚わ、九時前に帰宅しました。森君、木佐貫君と、三人の出席でした。大石君がいないと、ちょっとさみしいな、そして一級下の迫ちゃんは、ゼンチャンが居ないと盛り上がらないなあと、それぞれの思い、私もそれ以上の想いでした。

二人がいないと、しほんだ風船みたいです。昨年の美女は、有名なアーチストで、皆の前で絵を描くプレゼンがありました。二人がいないと、声をかける勇気も、ありませんでした。

チキショウ、おやすみ(ーー)zzz

大石

今日は大石は…  
中国CN留学生を  
引率して鹿屋『大  
隈くんち』に恒例  
のサマーキャンプ  
です。

明日はカヌーと  
BBQ 大会です。





これらの写真の他に、「ライン;玉龍同期会」に動画がありますので、ご参照ください。

#### 編集後記

「八期オンライン日記 100 号」は、大石慶二さんの骨折りと同期のみなさんの協力によって、今日を迎えることができました。

その名称は幾たびか変わりましたが絶えることなく継続されました。

当初、パソコンによるメール交換としてスタートし、スマホでのメールも合わせて採り入れ、時代の移り変わり時を反映して、1 年ほど前から今日のように、スマホ・ラインの投稿・メール交換の場になりました。その足跡をいくつか拾うと、

- 2017 08 28 八期会歴史愛好会
- 2018 05 30 八期会歴史探訪
- 2019 06 13 八期歴史会往来第 24 号
- 2021 04 01 八期歴史会往来第 48 号
- 2023 01 01 八期オンライン通信 67 号
- 2024 02 01 八期オンライン日記第 82 号

有意諸氏によって、末永く引き継がれることを祈っております。

願わくば、最後の 2 人になるまで、そして、最後の 1 人に最後の号をまとめて戴きたい。

書いた物はものは残ります。書かなければ、何も残りません。

**History とは、His(Her) Story.**

次頁より「玉龍八期会 卒55周年記念誌」より抜粋転載します。

## 私の鹿児島歴史探索

隈元 達雄（1組）



### 《鹿児島清水城と玉龍山福昌寺》

鹿児島清水城と玉龍山福昌寺は私にとって縁深い場所である。第一にそれその跡に私の母校・清水中学校と玉龍高校がある。第二にこの二年くらい前から始めた薩摩藩・島津氏の歴史を勉強してみて避けて通れない場所であるということだ。

じはいうものの二年ほど前までは清水城と福昌寺についての知識はあまり無く特に清水城についての知識は皆無と言つてよかつた。しかしこの二つを訪ねたり、調べたりするなかで、それそれに興味深い史実と史跡が残されていることや、関連があることが分かつてきました。

私は七十歳まで約四十七年間の会社生活を全うし、退職してもまだ身体的な余力はあったので、これまで続けていた男声合唱・グラウンドゴルフ、エッセイ書き、読書など好きなことしながら毎日を過ごしていた。そういう生活の中であるきっかけがあり、自宅がある武岡や、周辺の常盤田、西田町、武田、小野田などに多くの史跡があることを知る。持ち前の好奇心が頭をもたげて、自分で「歴史散歩」と称してデジカメ片手に史跡巡りを始めるようになつた。そしてそれ等をもとにブログやエッセイを書くようになった。

そのために、図書館で調べたり、ネットで調べたり、ときには歴史関連の講演会に出かけたりしているうちに「歴史探索」に変わつていった。そして知れば知るほど鹿児島の歴史は薩摩藩・島津氏の歴史抜きには語れないことが、よりはつきりしてきた。

そういう中、二〇一二年二月十五日の南日本新聞に興味ある記事が掲載された。“かごしま 昔と今を見つめる”というタイトルで書かれたその記事は稻荷町に住む「上町の歴史と文化に学ぶ会」の会長の肥後吉郎という方が清水中学校の裏山にあつたとされる鹿児島清水城の“山城”を一人で整備されているというのだ。二〇一一年六月から、地権者の許可を得て山に入り、行く手を阻む竹や木を地道に切り払い、作業を続けた結果、人を寄せ付けなかつた山が、九月には道が本丸近くに達し、曲輪（くるわ）や空堀（からぼり）、人工の断崖（きりぎし）なども見られるようになり、戦国の世の山城をしのばせるようになった、とある。

私はこの記事を見て、清水城は島津家にとつてどのような城だったのかと思い、調べてみた。すると大体次のようなことが分かつてきました。

暦応四年（一三四一）島津家五代当主貞久が南朝方の肝付兼重らが立てこもる東

福寺城を攻略し、六代氏久（うじひさ）をこの城に住まわせた。そこは鹿児島市の北部、錦江湾に突き出た山（多賀山）に築かれた“山城”だった。この時期は初代島津忠久が鎌倉幕府の源頼朝から薩摩などの守護職に任せられてから百年くらいしか経つておらず、薩摩の豪族も力を持つていたので、自分の身を守るために“山城”は欠くべからざるものだったのである。

そして島津氏の勢力が伸び、鹿児島が戦場になる危険が少なくなると、東福寺城では島津氏の居城として手狭であることが問題になってきた。そこで七代元久は嘉慶元年（一三八七）東福寺城から少し内陸に新たな城を築いて移り住んだ。この城こそが、その後、天文十九年（一五五〇）、十四代勝久の代まで八代にわたる当主が一六四年間、島津家の鹿児島城として使用した清水城である。

自分の母校の清水中学校がそういう由緒ある城の跡だったことはまさに青天の霹靂である。現在の校舎や校庭の場所に平城（屋形）部があり、裏山に山城があつたという。しかし当時の島津家は家督争いも激しく、それに付け込んだ各地の豪族の主導権争いや下剋上の反乱を誘発するなどお家は安泰ではなかつた。その後島津家の本城は内城（現在の大竜小学校）に移り、また鶴丸城へと移るのである。

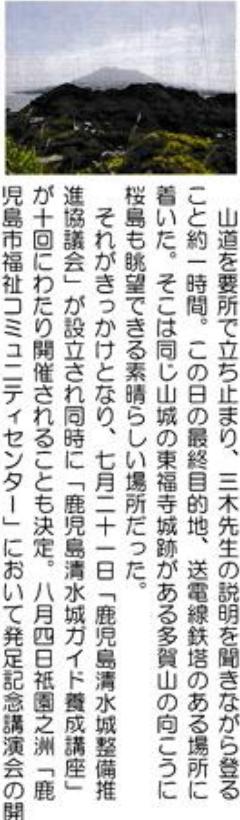


内城に移転した清水城跡には、一五五六年に大乗院が他所から移転し建立された。大乗院は薩摩藩における真言宗の中心になるお寺であったが、明治元年（一八六八）の廃仏毀釈により領内で最初に破壊され廃寺となつた。なお、中学校時代私たちが通学のとき渡つた稻荷川に架かる「大乗院橋」は肥後の名工・岩永三五郎が造つたものだつたがあのハ・六水害により流出し、その残材を集めて「一分の一に縮小され若宮公園に移築されている。そして中学校の前には太鼓橋状を保つたコンクリート橋が新たに架けられている。また清水中学校の校庭には、大乗院の五輪塔や石像物が今も残されている。

話が輻湊したが、南日本新聞を読んだ私は、すぐに清水城の山城部を訪ねた。ところが登り口と思われる山道は立ち入り禁止の表示がなされていて、引き返すしかなかつた。

それからしばらくして、同じ南日本新聞に“鹿児島清水城山城部跡 調査整備保存活用事業発足準備の集い”という参加者の募集記事が掲載された。連絡先が先日の記事の肥後吉郎さんとある。すぐ連絡を取るとそこで耳寄りな話を聞いた。中世城郭研究の第一人者である南九州城郭談話会会長で鹿児島国際大学名誉教授の三木靖先生が、当日清水城の案内をしてくださるというのだ。三木先生の話はそれまでの講演会で何回か聞いたことがあり、島津家の研究や日本における城郭研究の第一人者であるということを知っていた。当日、集合場所の稻荷町公民館には、

三十名ほどの人が集まつた。メンバーには清水中や玉龍高校卒の人が多く、会長の紀後さんもそうだった。



山道を要所で立ち止まり、三木先生の説明を聞きながら登ること約一時間。この日の最終目的地、送電線鉄塔のある場所に着いた。そこは同じ山城の東福寺城跡がある多賀山の向こうに桜島も眺望できる素晴らしい場所だった。

それがきっかけとなり、七月二十一日「鹿児島清水城整備推進協議会」が設立され同時に「鹿児島清水城ガイド費成講座」が十回にわたり開催されることも決定。八月四日祇園之洲「鹿児島市福祉コミュニティセンター」において発足記念講演会の開催が運びとなった。当日は前記、三木靖先生の「山城のあるまちづくり」と題する

記念講演があり、上町地区の人を中心に行なわれた。講座は一回二時間三分に及ぶもので、全て三木先生の手弁当に依るものであった。

内容は山城としての清水城、守護島津氏と清水城、清水城の遺物など、清水城や守護島津氏のことについて、鹿児島の他の山城や全国の山城、島津氏歴代の当主のことなど幅広く学ぶもので、私にとっては薩摩学の入門講座になつた。

ガイド講座は終わつたものの、ガイドをするのは、先の話であり、当面はせに知られていない鹿児島清水城の存在を知つてもらう活動が先である。



次に島津家の菩提寺・玉龍山福昌寺のことである。福昌寺の創建は応永元年（一三九四）鹿児島清水城の初代城主・島津家七代当主元久で、開山は島津一族の石屋真梁禅師（せきおくしんりょう）である。

福昌寺の境内は広く、大門、山門、本堂なる七堂伽藍のほか大小多数の建物が建てられ、僧侶は千五百を数えた。中國、四国、九州にも末寺を持つ西日本最大の寺院であつたという。しかし明治二年（一八六九）に廃仏毀釈で廃寺となり、昭和二十八年（一九五三）に県文化財「史跡 福昌寺跡」に指定された。

この福昌寺墓地には島津家六代から二十八代の当主とその一族の墓がある。その福昌寺を何十年ぶりかに訪ねた。ちょうど休みの日だったので、広い墓地の中では示現流の稽古が行われていたが、それ以外はほとんど訪れる人もなく、ゆっくりまわることが出来た。（ここにはその後も数回訪れるがいつも静寂に包まれて氣の落ち着く場所である。

だがここで不思議なことを発見した。墓所に入つてすぐの島津家墓地案内図の系

図と島津家正統系図にもある七代当主・伊久（「これひさ」）の墓標がないのだ。案内図でも系図には書いてあるのに、墓の配置図にはない。

明治維新までの島津家七百年の歴史の中で六代当主が氏久と師久、七代当主が元久と伊久と二人いたのも異例だが、これにはわけがある。

元久の祖父五代当主・貞久（薩摩・大隅の守護）は息子たちが協力しあいながら南九州を統治していくうちにと第三子・師久（奥州家初代）には薩摩守護職を、第四子・氏久（奥州家初代）には大隅守護職を譲つたためである。

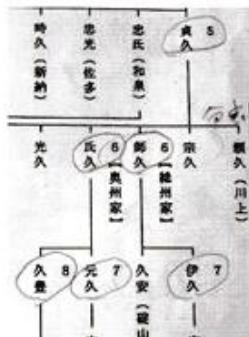
しかしその息子たちの代になり、師久の長子・伊久（総州家二代）（当時薩摩守護職）とその息子・守久は仲が悪く、守久は父を攻めた。氏久の長男・元久（奥州家二代）は父親から引きついだ大隅守護のため志布志にいたが、帰ってきて伊久と守久親子を和解させた。

そしてこの時、元久は大隅と薩摩の両方の守護をするようになり、それ以降、当代当主はまた一人になつた。その後、元久は、手狭な東福寺城から後に清水城を建てて引っ越しすのである。

墓の話に戻そう。当然ながら六代当主の一人と七代当主にあるとされる歴代当主の墓の中で唯一無いのがもう一人の七代当主・伊久の墓である。なぜ歴代当主の一人でないが福昌寺に墓がないのか、不思議である。

そこで伊久のことを少し調べてみた。伊久という人は私から見れば欲のないお人好しの面もあつたようだ。というのは先に書いた伊久の親子が争つたときに、同じ七代当主で大隅国守護だった元久が仲介に入り、事なきを得たのだが、元久に恩義を感じた伊久は家宝を元久に譲り、薩摩守護も元久に譲っている。しかしその後、恩義のある元久と戦うという局面もあり、凋落していくのだ。こうしてみると自業自得の面もあるが、悲劇の人である。

そして最後は薩摩平佐城（薩摩川内市）で病没したとされる。しかし薩摩川内市にもどこにも墓はないという。なぜこのような扱いをされているのか、不思議に思つた私は私なりに調べてみたが、答えはどこにもない。



ただいた。その概略は次のようなものだった。

「七代奥州家伊久は、後に元久と戦っており、応永十四年（一四〇七）に亡くなっていますが、墓地の場所は不明です。福昌寺を建てた元久と対立したことから、福昌寺の墓地にはないかもしませんが、詳しいことはわかつております」

なるほど、そうか、元久は対立した伊久の墓は建てなかったのかもしれない。これほど分かりやすい理屈はない。もしそうであれば、元久も普通の人間と同じような感情を持つ人だったのかと・・・。これはあくまで私見である。

これで島津家が伊久の墓についていまだに解明できていないことがはっきりしたのだが、それだけに謎は深まつた氣もする。いずれ解明されるのか。

福昌寺には興味あることが他にもあり、石壙に囲まれた島津家墓地の外にも歴史的に貴重な由緒墓や石像物が多く残されている。

石壙の左側を登っていくと、右側に「歴代住職の墓」があり、開山石屋禪師の墓をはじめ沢山の特徴のある墓標が並ぶ。ここには山側の岩肌に磨崖仏が二力所彫りられている。また住職墓の左側にも大きな三体の磨崖仏が彫られていて壯觀である。さらに急な坂を登っていくと「キリスト墓地」に到着する。



「特捜指令」、「田舎誕生百周年の常盤田で史跡めぐらをせよ」という記事で「千

眼寺跡（薩摩戦争本陣跡）」「常盤谷仮屋跡」「江田殿の屋敷跡」「水上の御仮屋跡（東・西客屋跡）」などが地図と写真と文章で紹介されている。

それまでに「江田どんの屋敷」のことは情報が少なく、唯一「常盤田之史蹟」（昭和十四年八月三十日発行・鹿児島県立図書館蔵のコピー本）のなかで「長屋門」として紹介されていたのを知るだけだった。

そこには、「七八七番地にある江田氏の門は、春日町にある田川上氏の門と共に武家屋敷の長屋門として、鹿児島に一つより無い貴重なる建物である。尚、今氏宅の庭園及び住宅は旧幕時代のまま保存されておるので、諸種の研究上参考となるべき点が甚だ多い」と記されている。ただこの記述も七十年以上前のものであり、現在は一部石垣を除きその面影はない。

さつそくその新聞を片手に再度それらの史跡をめぐり始めたが、大まかな地図であり、現地に表示のないものがほとんどたぬ、場所さえ特定できないものも多い。「江田殿の屋敷跡」もその中の一つで手がかりさえつかめない有様だ。

そんな中、ネットサーフィンをしながら探していたところ、「薩摩の石組み」と言うサイトに行き当たり、「江田どんの屋敷」のことが少し分ってきた。

それによると、江田家は薩摩藩の中級武士の家柄で、安政四年（一八五七年）江田国雅は藩主斉彬のとき、御鉄砲奉行役、御使番役であった。約二百年前に作られた江田邸は今はない。

江田家は神當流馬術の師範家であったと言われ、当時の主座などの配置図は記録として残っている。現在、屋敷跡の確認は難しいが、水上坂沿いの僅かに残る石垣にその名残を見ることが出来る。（石垣に排水口がある）とあり、石垣の写真も写されていた。

喜んだ私はすぐさま現地を再度訪れて、今度はそれを確認し、写真も写すことが出来た。そして自分のサイトに「そのことを書いた」。

するとそれをご覧になつた「やまももの部屋」のやまももさんから耳寄りな情報が寄せられた。「古地図にみるかしまの町」（春苑堂出版一九九六年）に次のようなことが書いてあるというのだ。

「少し水上坂寄りのところに二百年前の武家屋敷『江田邸』があった。江田どんの家は大変貴重な珍しい建物であった。子孫の方が現に使用してこられたので、薩英戦争、西南の役、太平洋戦争と三回も戦火にあった鹿児島では、一百年前か

文化財指定や観光資源としての公開を嫌い宣伝することもなかった。獅子文六の小説『南の風』で主人公の親戚の家として登場する。（中略）惜しいことに数年前に取りこわされたと聞いた。」

「これを見た私は、「南の風」をすぐ読んで読みたいと思い、図書館で借りる」と

《獅子文六の「南の風」と「江田どんの屋敷」》

私が歴史散歩を始めて武岡や常盤の史跡をまわり、写真を撮り、図書館やネットでいろいろ調べ始めたころ、タイミングよく南日本新聞に一つの記事が掲載された。平成二十三年十月十四日のことである。

などを思い巡らしながら、何気なく我が家の本棚を見ると朝日新聞社発行の「獅子文六全集」が目にに入った。

自分で買った覚えはないし、読んだ覚えもない。後で家人に聞くと四十年くらい前に小倉の叔父宅が引越し、廃棄しようとしていたので、もひつてきただとのこと。本好きの私が何故田にも留めなかつたのか今でも不思議である。

本棚には第一巻から第三巻までの三冊がある。これも後で調べたところでは十六巻発刊されている。私は祈るような気持ちで第一巻から目次を見た。すると第三巻の最後に「南の風」があるではないか。なんという幸運。

よく見るところの小説は、昭和十六年五月二十二日から十一月二十三日まで朝日新聞に連載されたとある。

私が生まれたのが、昭和十五年だから、私がよちよち歩き

をしていたであろう今から七十年前の小説である。なんとも不思議な縁を感じた。

早速読み始めた私は、すぐにも「江田どんの屋敷」の描写のあるところにいき

たかったが、ぐつと我慢して初めから読み進んだ。

主人公は宗像六郎太という無為無能で、東京では「動かない置時計」と呼ばれているくらいの春風駄蕩とした非神経質な男である。

母親は鬼頭院家という薩摩の名門の出身である。亡父は男爵だったが、郷里は鹿

児島で、先祖は下級武士で祖父は足輕だったという設定である。

物語は西郷隆盛の渡南説などもあり、奇想天外に展開するのだが、いじでは主要

なことではないので割愛する。

そんな六郎太に母春乃が、薩摩武士の精神を教え込むと妹康子も連れて三人で鹿児島を訪ねるといふから、「江田どんの屋敷」のことは始まる。

「車は舗装のできた広い路を走りだした。白亜の堂々たる建築が二つ三つ見えた。県庁とか市役所とかいう話だった。鹿児島も相当な近代都市だと思わせた。そのうち往来が狭くなり、家並みが低くなってきた。建築にこれという特徴がなく、潤

いの欠けた殺風景な印象を与えた。

車は長い橋を渡った。甲突川という河だそうだ。やがて町外れの風景になつて山が両側に迫ってきた。ついに車の駐まつたといふは、一軒家の古色蒼然たる武家門の前だった。」

当時の鹿児島市には、私たちが本駅と呼んでいた鹿児島駅と西駅と呼んでいた西鹿児島駅（現在の鹿児島中央駅）の二つがあったが、小説の描写からすると三人の親子は、鹿児島駅に降り立つことになる。その後、車から見えた景色や着いた場所などから、その親戚の家というのが常盤町の「江田どんの屋敷」をモチーフにしていたに間違いないと思われる。

その親戚と言つるのは、母親から駅頭で「六郎太と康子でござります。。。中郷の叔母さんです」と紹介されたことから、中郷家という母方の親戚だらうと思われるが、それ以上のことは書いてない。

「い」がお鹿さんの家だった。

『そ』、どうかお入りやつたもんせ』と、お鹿さんは、ボンヤリ佇立つてゐる六郎太を促した。

彼はべつだん遠慮をしたのではなかつた。古いというよりも今や、崩壊に瀕している門の柱や扉や苔蒸した瓦を眺めていたのである。（中略）原形そのものを見たのは、これが初めてだった。

門を入れると、砲壘のような石垣が邸内を覗かせまいとするように囲えていた。それに沿つて曲がると、初めて傾斜の上に玄関が見えたが、家屋に達するには三本の道があった。

一つの石段は、真っ直ぐに玄関に達していた。もう一つの石段は、それに平行して些か低く、内玄関のようなどひへ迂回していた。最後の道は、石も敷いてなく、植え込みと隣で勝手口へ行くしかつた。」

六郎太は、ともかく自分はお客さまだと思って、躊躇なく、第一の道を登つた。そのあと母親と妹は、内玄関に続く第二の道を登ることになる。最初のが男道、次が女道、三番目が出入りの商人や召使の道で、それを間違えたら人間の道を踏み違えたほど笑われたものだったそうだ。

その他にも、洗濯の盥（たらい）、物干し竿、洗面器も別、女は男より先に入浴しないなど薩摩の扱はいろいろあつたが、これらは世上にわれているような男尊女卑の思想からではない。この小説には書かれている。

「六郎太一人が靴を脱いた玄関は、門に比べると意外なほど小さかつたが、シンとして薄暗く不思議な威厳があつた。もし彼に芝居氣があつたら、頬もう」という挨拶を発したであつう。

やがてお鹿さんが現れて、彼を奥へ案内した。曲がり縁を二度ほど曲がって、眼下に庭の見える八畳の客間へ通ると、中廊下から母親や康子も出てきた。

そこでまた、改めて長い挨拶が始まつて、母親は持参した土産物などを出した。それが済むとお鹿さんは、強いて六郎太を床の間の前へ座らせた。」

「わょう」と、時間は十一時半頃だった。かねて用意がしてあつたとみえて、お茶の出た後にすぐ食事になつた。

女中が高脚の膳を献げて、六郎太の前に据えた。それはいいが、二度目に現れた

時には、お鹿さんと二人でちやぶ台を運搬してきた。母と娘とお鹿さんと三人分の食事が載せてあつた。

六郎太一人が、殿様然として時給の膳の前へ座つてゐるのである。

『なんちゅてん、百七十年にもなりもすで。。。』

とお鹿さんは、しきりに屋敷が古く荒れ果てることを弁解した。

これは、極端なようであるが、男尊ということはあっても女卑ではなく、人間の種類を分けるのに男と女ではなく、殿様と家来の二つがあるということが基づ

なつていたとのこと。今考へると違和感を覚えるが、これが当時の考え方だったのだ。

「島津公が江戸へ参勤交代の途次、この座敷で休息したこともあるた。

(中略)間数は全部で十一間で、勿論平屋であるが、地位(じぐらい)が高い上に、さらに石留の盛土をして土台ができる。その上に廊下よりも座敷が一段高くなっているので、そそつかしい者は、年中ケツますくだらうが、すべてそうした設計の目的は、高きにいる武士の心を養わんがためである。床下に悪く、厳重な柵を張つてあるのは、敵の間者が忍び込むのを防ぐ用心である。広い屋敷に押入れが一つもないのは、事ある時に襖を取り払つて、槍、長刀を自由に振わんがためである。——というような説明を聞きながら、家の中を順々に歩いて行こうわけに、六郎太は一抱えもあるような自然石の手洗鉢を見た。(中略)やがて彼らは、下駄を脱いで門へ案内された。門といつても、長屋つきの武家門は、細長い家のようなものである。

そこには部屋は、御一新以来使わないもので、それこそ狐狸が棲みそつた。『ヒア、物見部屋(こすと)』武者怒に簾が掛けあって、窓際に床几が置いてあった。それに腰かけて、家の主人は、外を通る農夫や商人の片言隻句を聞いて、下情上通や弾圧の緒(いとぐち)を捉えたのだそうだ。仲間部屋(ちゆうげんべや)は、いかにも寒そうな三畳だった。その隣が籠籠部屋で鼻を捕まえそうに暗かったが、よく見ると、一台の漆籠籠が寂然と置いてあつた。封建時代の埃が、一寸ほどの積つて……家そのものが博物館のようだ……」



り「常盤の武家屋敷跡（江田どんの屋敷の謂れ）と歴史の記録」という表題で、前

「南の風」における「江田どんの屋敷」の描写の部分は他にもあるが、大体これまでに書いてきたことに限る。

私の読んだ「獅子文六全集 付録月報版四」（昭和四十三年八月）によると、当時（昭和十六年）、朝日新聞の学芸部次長となっていた先祖が、鹿児島出身の後醍醐良正氏が「『南の風』と文六さん」という文章のなかでこの小説を書いてもらうために担当者として交渉したことや、鹿児島弁にもいぐらかかわったように書いておられる。

そのほか、本巻には獅子文六が昭和十六年二月に鹿児島に取材旅行に来て、南州神社の西郷さんの墓地の前で写った写真もある。

このあたりまで書いたところで、新聞記事の基になつた常盤町の百年記念の一環として発行された「常盤町名誕生百周年記念誌」を見るチャンスに恵まれた。

いつも月曜日の南日本新聞に楽しみにしている連載記事がある。歴史作家・桐野作人の「さつま人国譜」で、一〇一二年三月十一日の記事は「島津綱貴・鶴姫」とある。

読み進むと驚くべきことが書いてある。鶴姫とは誰であろう。なんとあの「松の廊下」で有名な吉良上野介義央（きらじゅうすのすけよしひさ）の娘が鶴姫と言い、島津第二十代当主・薩摩藩三代藩主の島津綱貴（一六五〇～一七〇五）の綱室（後妻）だつたというのだ。

記「常盤町名史蹟」の編纂者、弟子丸方吉氏（常盤出身）資料より、という形で歴史と解説がある。

この記述も初めて知ることも多く素晴らしいのだが、何よりも驚いたのは、立派な庭園に立つ紋付袴の主人と思わしき人を中心にして和装の八人の男女が写った写真である。

主人の頭にチョンマケは見えないので、そういう意味では比較的新しいものかもしれないが、よくこのような写真が残っていたものだ。

そしてもう一つあった。それは「江田邸の母屋」の見取り図である。「南の風」の描写では、頭の中でも見取り図を描くことは出来なかったのだが、十一部屋、建坪八十四・三五坪の全貌が表れたのだ。

「江田どんの屋敷」を調べ始めて、やまももさんからのご助言や一級の資料などにも行き当たり、一応の自述をつけることができた。

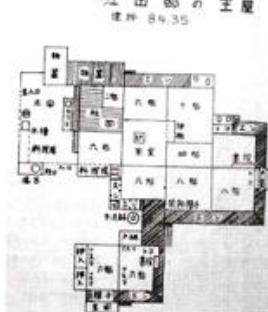
尚、「鹿児島大百科事典」（南日本新聞社発行）の「江田邸」「武家屋敷」でもこれらを裏付けることが出来た。

### 《島津家と江田家のつながり》

前記「獅子文六の『南の風』と『江田どんの屋敷』」のついて、島津家とその江田家のつながりについて書いてみたい。

今までもなく島津家は鎌倉時代以降、島津忠久を始祖とし、代々薩摩他の守護となり、十八代当主・島津家久からは薩摩藩主として七百年近く鹿児島の地を支配してきた。

一方江田家は薩摩の武士だが、身分は新番とよばれる中級武士だった。当然のことながら主従関係にあつたのだが、そのつながりを調べてみようと思ったのは次のようなことがきっかけだった。



吉良家も名門ではあったが、大藩の島津家とは家格が遠いすぎたため、鶴姫の弟で養子として米沢藩主になつて、上杉綱憲の養女という形で縁組したとのことだ。

ときに綱貴二十六歳、鶴姫十六歳だったという。

しかし、五年後の延宝八年（一六八〇）、子供が出来なかつたからなのか離縁さ

れてしまふ。そのことが後に吉良家を巻き込んだ松の廊下刃傷事件や赤穂浪士の吉

良邸討ち入りに島津家が関わらずにすむという結果になつた。

婚姻が続いていれば、島津家もその過に巻き込まれていたかも分らないというの

だ。それを読んで私も天の微妙な配剤を感じることだった。

それより前、私が常盤散歩をするなかで、常盤谷御仮屋のことを調べたとき、この御仮屋が、島津綱貴の別邸であったことを知る。

自分の住む近いところに綱貴公の存在があつたことを知り、フリー百科事典・ウイキペディアで綱貴公のことを調べるなかで、「夫人のことも調べてみた。そしてその中に「側室・お豊の方（家臣・江田国重の娘）」（鶴姫の離縁後は対外的に「側室・お豊の方（家臣・江田国重の娘）」と称された）である。

常盤谷御仮屋と「江田どんの屋敷」は目と鼻の先の近さなのだが、その二つが私

の頭の中で結びついた。なんと江田家の娘・お豊が綱貴公の側室の一人になつてい

たのだ。まさに晴天の霹靂である。

そこで手許に借りていた「常盤町名誕生 百周年記念誌」を詳細に読み返してみ

た。すると次のように書いてある。

それは、昭和十四年発行の「常盤町史跡」の編纂者、弟子丸方吉氏の資料より  
ということで「常盤の武家屋敷跡（江田どんの屋敷の謂れ）と歴史の記録」という  
記事の中についた。

「天保五年、江田国雅によつて誌された、江田家、家譜によれば江田家の祖、國  
重は薩州阿多田布施邑の郷士、有馬千石衛門重次の二男であつたが、江田重兵衛の  
儀米二十苞を買ひ求め江田氏を姓とし、ついで貞享四年、藩主島津綱貴の命によ  
つて鹿児島城下士となつた。これは国重の女お豊が貞享三年綱貴に召されたからで  
ある」とあり、間違いなくお豊は「江田どんの屋敷」の江田家の出であることが

分かつた。

続けて「この女性は元禄七年には綱貴夫人となり五男五女あり、その息は花岡、

垂水、富之城、吉利、佐志の領主となつてゐるほどである」とあった。

「さつま人國誌」の綱貴公と鶴姫のことがきっかけで、継室の江田国重の娘・於  
豊のことははつきりしたので、綱貴公の正室や継室、側室、またその子供たち  
のことを少し調べてみた。  
島津綱貴の正室は、常照院・鷹司松平信平の娘・米姫だったが一六七三年早世。  
それ以上のこととは現在分からぬ。

継室（後妻）として一六七六年に上記、吉良上野介の娘・鶴姫が入るが一六八〇年には離縁されている。その後、一六八六年に召された信証院・江田国重の娘・於豊が一六九四年には夫人になる。それより前から側室として蘭室院・二階堂宣行の娘・お重もいた。

米姫と鶴姫には子供は無かつたが、お重の方と於豊の方の子供はどうだったのか。資料によつては、あと一人側室がいたという説もあるが、その詳細は現在分からぬ。お重の方（二階堂宣行娘）との間に、四男一女があり、長男「吉貴（忠竹）」（一六七五～一七四七）は四代藩主になっている。

一方於豊の方（江田国重娘）には、五男五女があり、三男忠英は花岡島津家養子となり、当主となつた。四男忠道は島津久憲養子となり、垂水島津家八代当主・島津忠直となつた。五男久方は島津久洪養子となり、宮之城島津家七代当主島津久方となつた。六男清純（一六九六～一七二四）は蘭寝清雄の養子となり、吉利領主となつた。尚、蘭寝家は後に小松家と改姓した。

そしてこの小松家は後に肝属家から養子となり、佐志島津家者として活躍した小松帝刀の家系である。七男・久東は島津久智養子となり、佐志島津家当主となつた。また長女・亀姫（一六九〇～一七〇五）は関白近衛家久室。次女・栄姫（一六九八～一七七一）は松山藩主久松松平定英室となり、後に離別され剃髪して仏門に入り、信解院と号した。

奈百姫（一七〇一～一七一九）は島津久智室、五女・剛姫（一七〇三～一七二一）は桂久音室となつてゐる。もう一人の女子は夭折したのか、詳細不明である。

このように、江田国重の娘・於豊の方の子供は島津家藩主にこなつていもないものの、それぞれ名をなしてゐる。  
それからもう一つある。綱貴公の「夫人・常照院殿（米姫）・継室・信証院殿（於豊）」とその娘・信解院殿（栄姫）の三人が常盤の隣町である武町のいわゆる「島津どんの墓」（寿国寺跡）にあつたが、現在は区画整理と新幹線トンネルなどにより跡形もないに埋葬されていた。

この墓地には全部で四基しかなく、そのうち三基が綱貴公の縁者であり、しかもその中の二基は信証院殿・於豊その人とその娘・栄姫・信解院だった。  
たまたま常盤谷御仮屋と「江田どんの屋敷」から数百メートルしか離れていないが、それとは関係のないことだろうし、どう解釈すればよいのか。  
それを知るために、島津家の当主以外の墓地の在り方を調べる必要があるようだ。もっとも上記区画整理等の事情により、現在はこのお三方を含めて四基とも福昌寺跡墓地に改葬されているという。

じひとつ歴史の一つのヒントからいろいろなことを調べていく、次々と新しい

事実が浮かび上がってくる。だが今回も中途半端な究明に終わり、現段階で全てを解説することは、出来なかった。

これが専門家ではない私の限界かも分からぬが、あきらめず他のテーマにも取り組んでみたい。

私の最近の生きがいになっている「歴史散歩」に始まり「歴史探索」に行き着いたこの二年間の中でその中心になったことを書いてみた。興味の湧いた人はこの二つを訪ねてみませんか。いつでも案内しますよ。

歴史は「歴史上の出来事や人物を現代の目線で読み解く」とか「歴史から過去を学んで未来を知る」とか言われるが、とてもそのような高邁なものには到達しない。だが精一杯歴史を楽しむことは出来る。

人生の終焉を迎えるつある年代に入った今、思うことも多い。だが、逆にいうと束縛から放たれてまだ四年である。「これからが人生だ」という想いで命ある限り懸命に生きてみたい。

同期生諸君「いつまでも青春」でがんばろう。

#### 参考資料

- 「島津家おもしろ歴史館」尚古集成館
- 「あゆみ見るいこう かんまち本」
- 「わづま人国譜」から「島津綱貴繼室・鶴姫」桐野作人
- 「武郷土誌」武小学校PTA郷土誌刊行委員会、昭和四十九年
- 「常盤町名誕生百周年記念誌」常盤町内会 平成二十三年
- 「江戸大名家系譜」ネット情報
- 「島津綱貴」フリー百科事典・ウィキペディア
- 「上町維新まちづくりプロジェクト・かごしま探検の会
- 鹿児島清水城ガイド養成講座」テキスト 三木靖 他

#### 《八期通信》「自分の歴史探索」せー

「八期通信」の集大成を、創立者と大石くんから話があったのはちょうど一年くらい前だった。私にも何か書いてみたいかと言う。

それまでに「八期通信」にエッセイもどきを一回投稿し、大石くんのホームページにも下手な私の文章を二、三篇取り上げてもらっていたこともあり、何か書いてみようと思い立った。

実は数年前から五年間くらい、先輩の主宰する短歌を主とする文芸誌に自分の未熟さも顧みず「エッセイもどき」を投稿していく、文章を書くことに興味を感じるようになった。テーマは書き時になって思い付いたもので、「戦前戦後の子供時代のこと」「就職してから住んだ北九州・長崎・徳山時代のこと」「読んだ本のこと」「男声合唱を中心とする歌のこと」「旅の思い出」「仕事のこと」「子供・孫のこと」「市民農園を借りて楽しんだ野菜作りのこと」「クラウンド」「ルツや散歩のこと」など種々雑多である。時代もテーマも行ったり来たり。それでも六、七十編くらいになつたとさりに振り返ってみると、自分史と言えなくもないものになっている。むねうん自分が歩いてきた長い道のりからみると、とても書き直したものとは言えない代物である。しかし、あるときやの書き直しにも一つの転機が訪れた。その先輩が横須賀に引越されたのだ。(先輩はそれからも休むことなく毎月文芸誌は発行中である)ちようどそのころである。私が歴史散歩を始めたのは。読むもの、書くものも薩摩の歴史一邊倒になり、今回ののようなものを自分なりのまとめて、また記憶のために書くようになつた。そればかりではない。五年くらい前から始めたブログも最近は歴史ものがほとんどである。

今回投稿の『鹿児島清水城と玉龍山福昌寺』は、最近の自分の興味を書いたものであるが、『獅子文六の「南の風」と「江田さんの屋敷」』、『島津家と江田家のつながり』は以前それぞれ一つの文章として書いたものである。そのため、重なった部分もあり、全体からみるとおかしな文脈になっている部分もあると思うがお許しいただきたい。

文中にも書いたように「清水城と福昌寺」は自分と大きくなつながらりがあり、「江田どん」関係の二つは私が生まれ、途中一十数年のブランクはあったものの、現在も住む武、武岡周辺に因る語である。歴史の題材が身近に軽がつてることを知った私は、その後いろいろな情報を集め次々に訪ねている。

特に最近は古い石造物に興味を持ち、墓地を訪ねることも多い。その話をコーラスの仲間にすると「そいで！　おまんざあがうしどい　ないかついちょど」と冷やかされたりする。実際そういう場所は風呂なお暗く誰もいない場所が多く、写真を写すと自動でフラッシュがさく裂する。しかし、しばらくはやめられそうにない。そういう尚、拙ブログは「わたしのブログマスター847」で検索できる。

歌は世につれ!

魏晉紀弘(一組)



四  
卷之三

「無から神を作り出され、生みの苦しみを今とはうへはいじ思ひ出だす。」じにかの  
は箇和歌謡を竟ひかに歌ふ・愛し・マイベースで・・・・・

本や歌につれ！

滿留 和子(4組)



分からぬ青二才が業界の片隅に身を置き以来、制作、宣伝、販路、舞いのない充実した人生の前半期でした。

東日本大震災からやがて三年が過ぎようとしていますが、その後震はゆ々続いているまかせず、大きな苦労を強いているのです。そんな人々に願うのはいついろありますが、音楽（歌）による支援等はその壁たるものひとつではないでしょうか。

小生も昨年七月末、高城県鹿島町に出かけました。あの日、町の図書センターから最後まで避難を呼びかけ、御本人は捷足に逃されたというあの町です。

住民の皆様は高台の仮設住宅での生活を強いられていましたが街は全く手つかずの状態でした。“こんな時代”その店の店力を見せつけ、精神的なサポートが必要だと感じました。

音楽にも様々なジャンルがありますが、その一つに歌謡曲（演歌）があります。特に今、昭和歌謡に熱い現線が注がれています。歓動の昭和を生き抜き、日本の魂などなった多くの人々が歌に囲まれ歌とともに泣き、笑い、それだけ勇気を貢げたいくじょう。



中井、高畠和也ひよしゆくひよ、ロッソ三浦和田  
さんとの「花旗」、轟四郎さんとの「愛ねの一本杉」、続ら  
れて「豪傑印子さんとの「お嬢の母」、詩吟の全国公演、  
踊りの源元さん達のお世話をしたたるもので、「私の」  
は私が六十五歳を渡わたる機会

朝日キチ三と八時三十分に上  
が不明、土・日曜はほとんど家  
へ帰れるやうの」「やればかりを  
裏切つて、今やあいのへこむ

おじさんからのおねがい事項  
おじさん。  
おじさんは、両脇に広げて腰を下げる姿勢で、腰を振るうとしていた私を見事に  
いくつ手を立ててあります。



会社勤めの過去が少しそう分かって来た感。一番ひらく  
つむじは三橋さん、青田さんのファンは既往的で「あれや  
金」会長のやう(会員三百人程)全国組織となつてゐる、年

## 定年後の生きがいを見つけて

木場 祥雄（一組）



人生八十年の時代、定年になつてから約一十年のよひに過りゆか、やがて既に半分を経過し、今までを振り返るに胸に残された人生を有意義に過じやらしむ」と考えてみたい。

中国（江蘇省南通市）で定年を迎へ、奈良せハローワークで外国人就職紹介を四年間、週三日パート勤め、その間、仏教のことを勉強してみたこと大字の通信講座、生駒市生涯学習アーネスター（市民活動リーダー）養成講座などを受講したりして、今まで会社と家の往復だけの生活だけで、地域社会のことはほとんど家内まかせ。今後、地域社会くみのよひな形で貢献できるかを考え、自治会のイベントなどに積極的に参加し、二〇〇一年からは民生・児童委員を引き受け、地域の中で困りひとの相談や支援を行ひボランティア、地域住民からの社会福祉に関わる相談に応じ、一人暮らし、児童虐待などの予防活動などに取り組んで、二期九年間活動した。



まず、人様から相談受けたのは、自分自身が健康で身体が不自由なく動けることが大切。まだまた活動できたのであるが、人様に迷惑かけぬかといひのうえ、二〇一〇年に退任した。

他方その間、生きがいのある地域づくりのために地域の仲間でNPO法人を立ち上げ、ボランティアを含む市民相互の交流の場つくりを行い、市民間のネットワークによる情報の共有化を図り、市民活動を支援するNPO組織となりつつある。この活動に寄与するところとして、これまでの会員仲間中心の付き合いから離脱し、地域で新しく知り合った仲間で地域活動拠点を構築し、約七年いろいろ活動したが、会員の高齢化による活動に支障をきたすようになつて、次世代への後継者育成がうまくできず、二〇一一年にNPO解散した。その後は、

個人ベースで一部事業を継続していく。

生駒山上遊園地（大阪と奈良との県境における大田代川の上流）の花壇の草取り作業、地産地消で生駒市北部、高山農家の自然米を地域住民への斡旋紹介など、四年より続けている。

竹林寺（生駒市有里町）境内の清掃。奈良時代の僧行基菩薩の墓と伝わる墓が境内にあり。行基菩薩は多くの社会福祉事業に関わり、奈良の大仏さんの造立にも携つたと言われてゐる。二〇〇一年より毎月一日、十日、二十日の三回年前中、境内の清掃作業を奉仕している。

竹林寺につけば「行基・慈性のお墓があらねむ『竹林寺』@生駒」（奈良の寺社ガイド）（<http://small-life.com/archives/11/09/2621.php>）で結ぶべきである。

しかしながら上記事業をあと一～二年継続していくか、孫の保育所、週一～三回の迎え、ウォーキングなど、ボケ防止、健康維持に努めたいと願つてゐる。

昨年の秋には八期会南紀ツアーリアルの旅行企画を担当し、高齢山、熊野古道、熊野那智大社、伊勢神宮など観光し、参加者に楽しんでもらつた。また、今年の秋に八期会南紀ツアーリアル奈良地方の企画依頼を受け、準備に取り掛かっている。元氣で旅行に参加できるもの精進したところの通りの運である。

### 「ボケずに長生きしなはれや」

古希を迎へ、ボケずに長生きをめざすのが願望である。核家族化が進み、わが家も夫子ひば家の離れむけに住んでいたのに住みたがらない。国の方は在宅介護を進めようといふが、老々介護になつてお皿に身体への負担が大きくなつていいことが懸念される。



日本は長寿国といわれ、男性平均寿命七十九・六歳、女性八十六・四歳となつてゐるが、「健康寿命」はひとつ、健康で支障なく日常の生活を送れることが大切である。男性は七十・四歳、女性は七十三・六歳となつて七年といつて活動したが、会員の高齢化による活動に支障をきたすようになつて、自力で身辺のことができ、好きなものを食べたり、時には散歩、遊び、友達と会つたりすることができるが、世ふるの誕生日である誕生日が近づいてくる

曰この頃である。

松下幸之助さんの詩言葉に「ボケずに長生きしなはれや」作者不詳として掲載されていた。なかなか実行することはたやすいことではないが、戒めとして心がけたい。

### 『ボケずに長生きしなはれや』

①	年をとつたら 憎まれ口に 人のかけぐち 他人のことは 聞かれりや 知っていることも いつでも阿呆で	でしゃばらず なきことに ぐち言わす ほめなはれ 教えてあげてでも 教らんふり いるこつちや	②	勝つたらあかん いすれお世話に 若いもんには 一歩さがつて 円満にいく いつも感謝 どんな時でも	負けなはれ なる身なら 花もたせ ゆするのが コツですわ 忘れずに へえおおきに
③	お金の欲を なんぼゼニ力ネ 死んだら あの人は そない人から 生きているうちに 山ほど徳を	捨てなはれ あってでも 持つていけません ええ人やつた 言われるよう にバラまいて 積みなはれ	④	というのは ほんまにゼニを 死ぬまでしつかりと持つてなはれ 人はケチと お金があるから みんなベンチャラ 内緒やけど	それは表向き はなさずに 言われても 大事にして いうてくれる ほんまだっせ
⑤	昔のことは 自慢ばなしは わしらの時代は なんぼ頑張り あんたはえらい そんな気持ちで	みな忘れ しなはんな もう過ぎた かんでも ききまへん わしゃあかん	わが子に孫に どなたからも ええ年寄りに ぼけたらあかん 頭の洗濯 何か一つの せいぜい長生き	世間さま 慕われる なりなはれ ほんまだっせ しなはれや	
⑥					

(作者  
不詳)

### 八期通信アーカイブス

2009年 第15号  
岩元 麻衣（3組）



「タカサゴ」というと台湾の高砂族も連想しますが、その通りで、台湾の山地に広く野生するユリで、学名は「Liliium formosanum Wallace」。大正時代に観賞用として導入されたものが、強い繁殖力で各地に野生化した帰化植物だという。通常のユリは他家受粉をし、花が咲くまで数年かかるが、この花は自家受粉をし、花が終わると一輪につき一本、長さ十センチほどの細長いサヤが出来る。サヤの中は、六列に別れていて、一列につき百個以上の種子がぎっしりと詰まっている。晩秋になると、サヤがはじけて種子が放出され、風に乗って運ばれて行く。その一つ側が我が家家の庭に活着したものと思われる。

タカサゴユリは、葉が長細く先が尖っているので「純葉ユリ」とも云われる。テッポウユリとは近縁種で、自然交配した新テッポウユリも出来ている。タカサゴユリは、花の外側に海老茶色のストライプが入るが、白い種類もあるとのこと。我が家家の花は、ストライプは入っておらず、テッポウユリに似ている。西日本を中心に広く野生化していたようであるが、種子が風に乗って東上してきたものと思われ、近年横浜の我が家家の近隣の道端や空地、庭等に咲いているタカサゴユリを見かけることが多くなった。繁殖力が強く、軽いので風に飛ばされない茎みや、隙間に入り込んで活着している。秋に出来る種子を前庭、裏庭、通路等に蒔いておいたところ、新芽がいっぱい出て来て、毎年花を咲かせている。高さ三十センチで咲くものや、1.5メートルくらい高くなるものなど様々であるが、清楚な美しさにひかれ、百合屋敷と自称して楽しんでいる。

### 八期通信アーカイブス

2008年 第14号  
渡辺 義照（5組）



昭和30年4月、玉龍高校に入学し、先輩の勧めでバスケット部に所属。以降、土、日曜もなく、明けてん、暴れてもん、バスケの練習没頭でした。当時、部員は3年の萩原、松崎、2年の日高、神宮寺、町田、大西の各先輩と1年が松本（マット）徳永（トッケン）浜田、草野（後の俳優、途中退部）渡辺で、監督は谷崎先生でした。体育館で練習するのは県内では少なく、我々は恵まれた環境下で練習に励む事が出来ました。

5月、6月に玉龍高校体育館に於いて県大会が開催され、両大会とも準決勝で志布志高に惜敗し「ハガイカ」思いをしたものです。それからが玉龍高校黄金時代の到来！

10月末、川内市の川内祭りでバスケの大会が開催され、我が玉龍高も1、2年の新人チームで出場する事になりました。初戦から順調に勝ち進み、決勝戦で強豪川内高と対戦し、接戦の末初優勝。部員一同、大いに盛り上がったものでした。感無量！

この事が原動力となり、後々、県の各大会を制覇することになったのでした。昭和31年4月、有望新人も入部。一段と戦力アップ。5月、6月の県大会に優勝し、九州、全国、両大会に初出場する事になりました。

全国大会は、鳥取県で開催され、群馬県前橋工と対戦。惜しくも敗退しましたが、他県との試合は、弱点を強化する等の後の練習に生かされました。昭和32年の5月、6月も二年連続で県大会制覇。この年は女子部も同時優勝し、九州、全国大会（東京）アベック出場の快挙を成し得ました。結果は、男女とも一回戦惜敗でした。